

龍馬を求める人々の思いに応えるとともに、龍馬の中核施設としての機能充実を図る

要求水準－収集・保存

収集方針に基づき龍馬に関する資料を収集し、適切に保存する

評価項目

- (1) 他の博物館との連携や資料所有者との信頼関係の構築に努め、資料の充実を図る
- (2) 資料の整理・分類、点検・劣化防止等の処置を適切に行う

状況説明

- ・29年1月からスタートした県外の文化施設との連携による巡回展示を、29年度は熊本県立美術館、ホテル雅叙園東京、広島県立歴史博物館の3カ所で開催し、開催地の文化施設や関係機関との信頼関係を築くことができた。
- ・本館地下2階の「幕末写真館」の展示に関し、多くの県外文化施設から100点を超える資料提供を受けた。
- ・新館の整備に伴い、資料の収蔵・展示環境が大きく改善されたこと等により、「博物館相当施設」として指定された。
- ・所蔵資料や図書のデータベースを構築し、適切な管理に活用できることとなった。
- ＜寄贈資料＞
- ・坂本龍馬書簡(慶応2年12月4日権平・一同宛の一部)、坂本直の関係資料(108点)、錦絵(5点)
- ＜購入資料＞
- ・木戸孝允から坂本龍馬宛て書簡、『英米対話捷徑』など10点
- ＜複製品の製作＞
- ・京都国立博物館が所蔵する亀山社中・海援隊の雑記帳といわれる「雄魂姓名録」、「海援隊日史」など

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂本龍馬の書簡をはじめ、貴重な資料を収集し、所蔵資料の充実を進めていることが認められる。</li> <li>・巡回展で連携した施設との信頼関係により、30年度以降の企画展での資料の借用が実現するなど、他の博物館や関係者の協力を得ることができている。</li> <li>・所蔵資料や図書のデータベースの構築をし、「博物館相当施設」として、適切かつ効率的な管理体制を整えることができている。</li> </ul>

要求水準－調査・研究

龍馬に関する調査研究を進め、その成果を公開する

評価項目

- (1) 職員の専門性の向上を図るとともに、龍馬とその関連分野に関する調査研究を進める
- (2) 調査研究の成果を、企画展や広報媒体などを活用し、広く公表する

状況説明

- ・博物館機能を備えた施設の整備にあわせて、今後の調査・研究の担い手となる学芸員を1名増員し、体制の強化を図った。
- ・リニューアルオープン後の企画展に向け、米国でのジョン万関係の資料調査や、福島県での戊辰戦争と自由民権運動関係の資料調査などに取り組んだ。
- ・職員の専門性の向上を図るため文化庁主催の「国宝、重要文化財の防災防犯対策研修会」に参加した。
- ・坂本龍馬書簡（慶応2年12月4日、権平・一同宛）及び坂本直関係資料（108点）など寄贈された新たな資料の調査研究を進めた。
- ・県外巡回展を熊本、東京、広島において実施し、開催地を関連付けた展示や、学芸員が出向いての講演を行うことで好評を得た。

熊本県立美術館（4月8日～5月14日、37日間、10,172人）では、同館及び熊本日日新聞社と協力し、地元出身の儒学者 横井小楠と組み合わせて龍馬の業績などを紹介することができた。

ホテル雅叙園東京（6月1日～25日、25日間、31,000人）では、ソフトバンクグループ(株)と協力し、龍馬の業績などを紹介することができた。

広島県立歴史博物館（7月14日～9月10日、59日間、11,485人）では、同館及び中国新聞社と協力し、福山市と龍馬の関係に的を当て、龍馬の業績などを紹介することができた。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・寄贈された新たな資料の調査研究、リニューアルオープン後の企画展に向けた、米国や福島県での資料調査など、調査研究への取り組みが認められる。</li><li>・県外巡回展により、これまでの研究の成果や坂本龍馬記念館を広くPRすることができ、各地の学芸員との協力体制も構築されたと認められる。</li><li>・今後の調査研究及び企画展での成果の公表に期待ができる。</li></ul>

要求水準－展示・公開

土佐の気風と幕末維新の息吹が感じられる魅力ある展示やサービスの提供により、龍馬の業績を伝える

評価項目

- (1) 「桂浜」や「龍馬像」に隣接する立地条件を生かし、来館者の増加につなげる施策を戦略的に展開することにより、5年間で70万人以上の来館者を目指す
- (2) 来館者に龍馬の志や生涯を深く理解してもらえよう、幕末史や土佐の郷土史のなかに龍馬を位置づけた展示を行う
- (3) 龍馬に関する専門施設として、一人ひとりの疑問に答えるレファレンスサービスや、学芸員によるギャラリートークなど、来館者の理解が深まる取り組みを充実させる

状況説明

- ・県外巡回展では、記念館のリニューアルオープンの告知や、PRを行った。
- ・仮事務所を設置した国民宿舎「桂浜荘」では一室に展示コーナーを設け、訪れた方々や桂浜荘の利用者の方々へのサービスに努めた。
- ・新館の常設展示では、幕末を象徴するペリー来航の展示に始まり、龍馬の生い立ちから土佐勤王党への加盟、脱藩、薩長同盟、幕長戦争、大政奉還といった幕末の歴史的な出来事を辿る中で、龍馬をはじめ土佐の志士たちの書簡や土佐藩邸の資料などを展示した。
- ・本館では、浦戸城と長宗我部氏を紹介するコーナーを設けたほか、龍馬が生まれ育った土佐の城下町の様子と身分制度に関する展示を行うなど、郷土史とともに龍馬を知ることができる内容とした。
- ・休館中ということもあり、展示解説などは行わなかったが、電話やホームページを通じた問い合わせには従前どおり対応した。また、様々な団体からの講演依頼や取材申し込みにも可能な限り応えた。

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"><li>・リニューアルオープンに向け、県外巡回展でのPRを行うなど広報活動の努力が認められる。</li><li>・新館の常設展示室の展示については、来館者からの要望が多かった龍馬の活動や業績の時系列での展示を実現できた。また、来館者に龍馬の志や生涯を深く理解してもらえる展示への取り組みを行ったことが認められる。</li><li>・休館中も、問い合わせ、講演依頼、取材申し込みに対応するなど、明治維新150年を前にした龍馬と幕末への関心の高まりに応じることができている。</li></ul>

要求水準－教育・普及

次代を担う子どもたちをはじめ、県民に龍馬について正しく理解してもらうため、教育普及活動の充実を図る

評価項目

- (1) 学校との連携による出前授業の実施や校外学習活動の受入を積極的に行うなど、子どもたちの幕末維新や土佐の歴史を学ぶ機会を充実させる
- (2) 龍馬に関する講座やシンポジウムの開催など、龍馬への県民の理解が深まる取り組みを充実させる

状況説明

・坂本龍馬に関心を持ってもらうため、オリジナルの紙芝居を使った記念館職員による「出前授業」を県内の幼稚園、小学校、放課後児童クラブ等で行い、延べ39校・87クラス、延べ3,071人の参加数となった。併せて、元記念館学芸専門員による授業にも20校、1055人の参加があった。

・地元の新聞社と協働して行った「夏休み子どもフォーラム」では、龍馬暗殺150年に因んで、参加した子どもたちが新聞記者として「龍馬暗殺」という事件を取材し、新聞記事を書くというワークショップを行った。歴史に触れる面白さ、楽しさを体感してもらうことをめざし、歴史学習の面白さを伝えることができた。

・「龍馬暗殺150年」をテーマとする記念シンポジウムを開催し、県外からの参加者を含め343名の来場者があり、研究者による基調講演、県内の幕末をテーマとする歴史系博物館の学芸員と当館学芸員によるパネルディスカッションを行った。

・「現代龍馬学会」での講演会や研究発表を行い、坂本龍馬や幕末維新への県民の理解、関心が深まる取り組みをすすめた。

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"><li>・休館期間を利用し、多くの学校等で「出前授業」を行ったことは評価できる。</li><li>・夏休み子どもフォーラムでは、ユニークなワークショップを行うなど、子どもたちの歴史への興味を持つきっかけにつながる取組を行っている。</li><li>・記念シンポジウムでは県外からの参加者を含め多くの来場者があり、龍馬をめぐる最大の謎とされる暗殺の実相に迫るとともに、新たなファン層の掘り起こしができている。</li></ul>

## 要求水準－広報

龍馬に関する情報を全国に発信し、新たなファン層の拡大とリピーターの定着を図る

### 評価項目

- (1) ホームページを活用し、より多くの方に龍馬を知ってもらうとともに、来館への動機づけにつながるような情報発信を行う
- (2) 来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いをくみ上げる取り組みを継続して行うとともに、その内容を活用し効果的な広報を行う

### 状況説明

・ホームページのリニューアルを行い、スマートフォンへの対応や動画の導入など閲覧者のニーズに応じた見せ方、県内漫画家によるイラストで龍馬の生涯を紹介するページや、龍馬に関するクイズなど子ども向けのページの充実など、幅広い年齢層の龍馬や当館への関心を惹起する工夫をこらした。  
また、フェイスブックやインスタグラムなどのSNSへの対応も可能な仕様とした。

・国民宿舎「桂浜荘」に展示コーナーを設置し、投函箱を置いて「拝啓龍馬殿」やアンケートを実施し、観覧者の記念館への期待や龍馬に対する思いなどを拾いあげた。

・県外巡回展においても「拝啓龍馬殿」を実施し、会場ごとに広報誌「飛騰」に特集を組んで紹介した。特に県外会場での特集では、地震被災のあった熊本の声は「負けんばい!」、東京はソフトバンクグループ社長孫正義氏の言葉より「高い志をもって」、広島は鞆の浦でのいろは丸事件などを思い「龍馬ゆかりの地にて」というように特色を出した紹介ができた。

評価	理由
B	<p>・ホームページリニューアルについては、龍馬Q&amp;Aや縁の地の紹介など、龍馬に関する興味、関心を深めることができる従来の良さを残しながら、子ども向けのページや動画のトップページなどを設け、新たなファン開拓をめざすリニューアルを行うことができている。</p> <p>・県外巡回展において、県外各地の龍馬ファンの方々の声を聞く機会を設けることで、今後の広報のあり方や県外での展示活動などについての参考とする努力が認められる。</p>

要求水準－その他
評価項目 県内外の他の博物館等と連携した事業の充実により、県民サービスの向上を図る

状 況 説 明
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の借用や複製の制作などの業務を通じて、京都国立博物館をはじめ、福井、山口、長崎など県外の龍馬関係の文化施設との連携や協力を更に強めることができた。</li> <li>・県内の文化施設についても、高知城歴史博物館の龍馬関係の展示に向けた共働や、連携施設であり幕末維新博の地域会場である安田町「まちなみ交流館・和」において、坂本直関係資料の一部を初公開することにより、展示内容の充実や県民の関心の喚起につながった。</li> <li>・県内外の関係施設との連携を通じて、職員の専門性の高まりやスキルアップにつながった。</li> </ul>

評価	理 由
A	県内外の関係施設との連携を通じて、職員の専門性の高まりやスキルアップが進んでおり、リニューアルオープン後の様々な展示の充実と来館者の満足度の向上が期待される。

要求水準－施設管理

施設及び設備の適切な保守管理をとおして、故障や事故のない運営を行う

評価項目

(1)適切な管理運営の確保	社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
	建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
	危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

・新館の建設及び既存館のリニューアル工事のため、29年度は休館となった。工事についての事務は県が主であったが、進捗管理等については情報を共有し、適正な工事の進捗に努めた。  
 ・工事期間中は、歴史民俗資料館に資料の保管を依頼し、適切な管理を行うとともに事務所移転や資料の搬送での個人情報や資料について、適切な取り扱いに努めた。  
 ・建物完成後の機械器具等の保守管理については、関係業者に委託し、適切な管理に努めた。  
 ・消防計画に沿った館内組織体制を定め、新たな施設での危機管理マニュアルを作成し、職員に周知し、職員の目に付く場所に掲示している。3月には消防署立会いの下、消防訓練、避難誘導訓練を実施した。地震等への備えについては、館内にヘルメットの配置や水、簡易トイレ等の備蓄をしている。

評価	理由
B	休館中で次年度に向けての準備を行う中ではあったが、概ね要求水準どおり、適切な管理運営を行っている。

評価項目

(2)利用者サービスの維持向上	・利用者の意見の反映 自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み
-----------------	---

状況説明

・リニューアルオープンに向けて、障がいのある方への対応やクレーム対応、語学(英語・中国語)などの自主研修を実施し、職員の資質の向上を図った。  
 ・財団本部が実施する研修(自主企画研修、接遇研修、救命講習、新規採用職員研修)や外部団体が実施する研修(著作権セミナー、国宝・重要文化財防災・防犯対策研修、労働契約等解説セミナー、ホームページ講習)に参加し職員の資質の向上に努めた。  
 ・利用者の事故に対しては、事故等対応手順を策定し、対応についての確認を行った。

評価	理由
B	概ね要求水準どおり、適切な管理運営を行っている。

評価項目		
(3)利用実績	利用実績の状況	・利用状況の分析

状況説明	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休館していたため、来館者の実績はない。</li> <li>・県外3か所での巡回展(全日数121日間)を実施し、52,657人の入館者があった。</li> <li>・学芸員や記念館元学芸専門員が県内の小中学校等に出向き、龍馬に関しての出前授業を実施し、記念館と坂本龍馬への関心を高めた。</li> </ul>	

評価	理由
B	県内外に坂本龍馬記念館と坂本龍馬への関心を持ってもらうための取り組みを行い、リニューアルオープン後の集客を図る活動が認められる。

評価項目			
(4)収支の状況	経営努力	・収入増加の取り組み	・経費削減の取り組み

状況説明	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休館中のため、観覧料収入はなかったが、県外巡回展での物品販売、通販による販売は継続して実施した。</li> <li>・事務所は移転して業務を行っていたが、消耗品・コピー時の裏紙の活用など経費節減への取り組み経費節減に努めた。</li> </ul>	

評価	理由
B	経費削減や県外巡回展での物品販売等に努めたことが認められる。



総合評価

評価	理由
B	<p>・新館・本館での展示について、従前のものを一新し、今後の来館者の拡大に資する内容のものとしてできている。</p> <p>・県外巡回展やリニューアルオープンに向けての資料収集を通じて県外の博物館・関係機関との連携を深めるとともに、新たな機関との協力体制もでき将来の活動の充実につなげることができている。</p> <p>・坂本龍馬の書簡などの貴重な資料の収集ができている。</p> <p>・職員研修の充実にも取り組み、接遇等資質の向上を図ることができている。</p> <p>・広報誌「飛騰」の発行、マスメディアを活用したりリニューアルオープンの告知、「拝啓龍馬殿」を活用した様々な龍馬ファンの声や意見等のくみ上げ等により、新たな龍馬ファンの拡大とリピーターの確保に努めている。</p> <p>・児童生徒への教育普及事業活動を通じて次世代の龍馬ファンの育成を図ることができている。</p> <p>以上のことから、概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営、事業の遂行がなされたと認められる。</p>

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する。